

発達心理学研究の 「新審査方針」に関する説明会

3月26日(土) 10:00-11:30

発達心理学研究改革実行WG

(発達心理学研究編集委員会内)

上原 泉

『発達心理学研究』は、新しく生まれ変わります！

2022年8月(予定)から、新審査方針・編集へ

- * 質疑等は、Q&Aにご記入お願いいたします。
(後半の時間の許す範囲内で回答させていただきます)
- * 今回回答できなかった、あるいは回答を保留した点については、HP上で回答する等、させていただきます。

発達心理学研究改革実行WGメンバー

仲真紀子氏、杉村伸一郎氏、金政祐司氏、
伊藤大幸氏、池田幸恭氏、中川威氏、上原泉

Email: edit-wg@jsdp.jp

主な変更点

2022年8月(予定)から、新審査方針・編集へ

- * 7月末(予定)までに投稿された論文については、
現在の方針で審査されます。8月(予定)以降に投稿
された論文は、新方針で審査されます。
- * 審査結果区分は、
「掲載可」
「修正再審査」(ただし初めの1回のみ)
「掲載不可」

主な変更点

2022年8月(予定)から、新審査方針・編集へ

* 論文種別

「原著論文」 「報告論文」 「実践論文」
「展望論文」

#原著論文で投稿しても「報告論文」なら「条件付掲載可」などと審査結果が出る可能性あり。

* 論文の長さの制限を緩和します。

「原著論文」「実践論文」の長さは、本誌刷り上がり12ページ以内。「報告論文」の長さは、本誌刷り上がり8ページ以内など。

#「原著論文」で投稿され、「報告論文」で掲載可となった論文については、12ページ以内(8ページ以内ではなく)とする。

主な変更点

2022年8月(予定)から、新審査方針・編集へ

- * インパクトの評価基準を整理し明確に。
- * 要旨、キーワードとは別に、
インパクトの記載をもとめます。
(日本語インパクトは150～200字、英語インパクトは50～70語)

詳細は、発達心理学会のホームページをご覧ください。

改正の経緯

発達心理学研究改革実行WG
(発達心理学研究編集委員会内)

杉村 伸一郎

インパクト中心主義

2007年までの編集方針等の問題

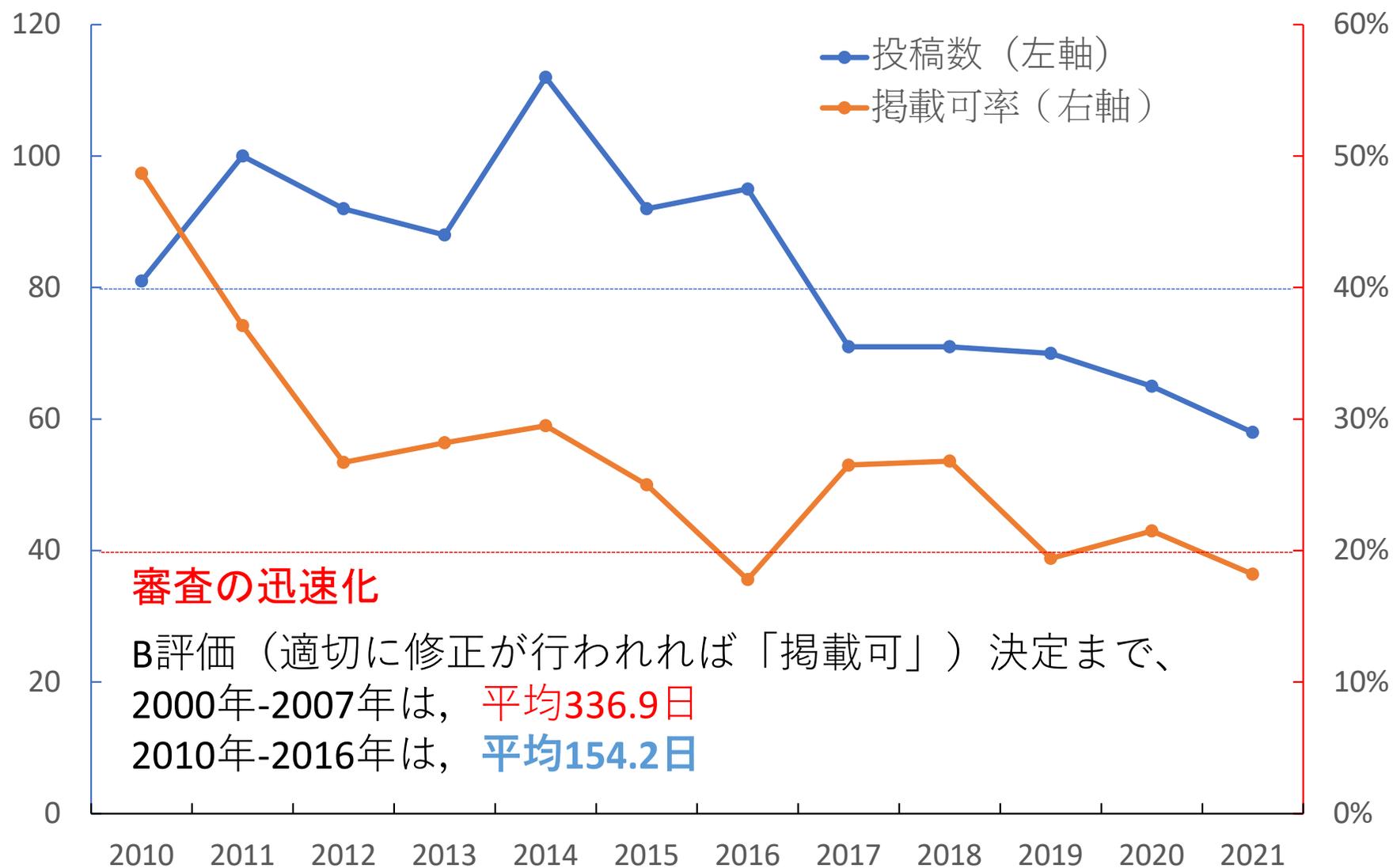
- 欠点の少ない論文を評価する方向に振れていた
- ほとんどの論文が初回審査で修正再審査となり、審査が長期化

無欠点主義からインパクト中心主義へ、審査の迅速化

2008年よりインパクト中心主義に基づく審査を実施

- 論文のよさを積極的に評価
- 審査結果を、修正再審査をなくし
「掲載可」と「掲載不可」の2種類に

投稿数の減少と採択率の低下



背後で生じていた問題

- 「インパクト」という言葉が独り歩きし、投稿や審査のハードルが上がった

「論文のよさを積極的に評価」

というインパクト中心主義の理念がうまく実現できていない

- 審査者の判断が分かれた場合に、掲載可と判断されることが少ない。BD → B 20%以下。

1回の審査で結論を出さなくてはならないため、

論文の問題点が修正可能かどうかを確認できない

改正に向けて その1

- 2016年9月 編集ワーキンググループが設置
1年以上かけて検討され、新たな編集規則の案まで作成されたが、実施は見送られる
- 2021年2月 「発達心理学研究」の審査に関するアンケート調査
- 2021年3月 第32回大会において
ラウンドテーブル「発達心理学研究」における査読の在り方:
インパクト中心主義について改めて考える」を開催

改正に向けて その2

- 会員の方へ 編集委員会だより(2021年 3, 6, 9, 12月)
- 編集委員会 3月以降4回
- ワーキンググループ 5月以降8回、サブWGも
- 理事会 5月以降3回

論文種別の新設と インパクトの評価基準

発達心理学研究改革実行WG
(発達心理学研究編集委員会内)

伊藤 大幸

会員アンケート（2021年2月実施）

- インパクト中心主義の理念には大部分が賛成する一方、これに沿った審査が行われているかについては意見が分かれる
- インパクトの評価基準の明確化が必要だという意見が多数
- インパクトの評価基準には、少なくとも**オリジナリティ**、**クオリティ**、**社会的意義**の3要素があり、研究者によってどの要素を重視するかが異なる
- 萌芽的な研究や実践的な研究を掲載する**論文種別の新設**を求める声も

インパクトの評価基準

- **インパクト**：その論文において報告された研究の学術的および社会的な価値や影響力。研究そのものの固有な性質であり、基本的に事後的な修正が困難な要素。以下のような観点がある。
 - **オリジナリティ**：着眼点のおもしろさ、研究方法の独自性、研究結果の新規性、今後の発展可能性、新たな議論を喚起する可能性など
 - **クオリティ**：洗練された研究デザインの設定、優れた測定方法や課題の使用、収集されたデータの質・量、知見の再現可能性など
 - **社会的意義**：研究課題の社会的重要性、臨床・教育・育児支援などの実践への示唆、政策上の議論への貢献、社会的な波及効果など

論文種別の新設

• 報告論文

- 十分に洗練された方法論や理論的基盤に基づいていないものの、独自性の高い発想や方法に基づいており、新たな議論を喚起しうる萌芽的研究
- 類似の研究知見がすでに報告されているものの、そうした知見について洗練された方法を用いて追試的な検証を行った追証的研究

• 実践論文

- 保育・教育、心理臨床、療育・発達支援、育児支援、高齢者福祉、コンサルテーション等、発達に関わる実践をともなう研究

論文種別ごとの評価基準

	インパクト			形式的要件
	オリジナリティ	クオリティ	社会的意義	
原著論文				
基礎研究など	○	○		○
応用研究など		○	○	○
報告論文				
萌芽的研究など	○			○
追証的研究など		○		○
実践論文			○	○

○：重視される観点

※○の有無は相対的な重視の程度を示したものであり、○のない要素が評価の対象とならないことを意味しない。

原稿作成・審査結果の注意点

発達心理学研究改革実行WG
(発達心理学研究編集委員会内)

中川 威

原稿作成：インパクトの記載

* 日本語要約

本研究は、…

【キーワード】発達、…、

【本研究のインパクト】本研究は、…（150～200字）

* 英語要約

This study …

【Keywords】development, …、

【Research Impact】This study …（50～70語）

＃心理学に精通した研究者以外の読み手にも研究のインパクトが伝わるように記述してください。

記載例は後述いたします。

原稿作成：インパクトの記載

* 日本語インパクトの記載例

これまで本邦においては症例報告や医療機関受診者を対象とした報告が多かった小中学生の性別違和感(身体的性別と心理的性別のずれ)について、独自の質問紙尺度を開発し、コミュニティベースでの調査を行った。性別違和感が内在化問題(抑うつ)および外在化問題(攻撃性)の双方と関連すること、また、内在化問題との関連は中学生男子で特に強いことを実証し、性別違和感を抱える小中学生への心理的支援の重要性が明らかとなった。

浜田恵ほか.(2016). 小中学生における性別違和感と抑うつ・攻撃性の関連. 発達心理学研究, 27(2), 137-147.

専門用語は定義したり言い換えたりしてください。
他の記載例も学会ホームページに掲載いたします。

審査結果：修正再審査

* 審査結果区分

掲載可

修正再審査

掲載不可

* 修正再審査

初回のみ限定する。

再審査は審査者に戻さず、担当編集委員のみが行う。

初回審査後の修正期間は3ヶ月以内

審査結果：修正再審査

* 補足

論文の種別を変更して「掲載可」あるいは「修正再審査」とする場合がある。

原著論文から報告論文に変更される場合、論文の分量超過を認める。